



令和2年度 宿利原小学校だより

宿っ子

5月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



体験活動を通して～学ぶ・感じる～

校長 有留盛昭

作物を栽培する農家の方々は、昔から暦や天気の状態を観察して、田や畑の段取りをするといった知恵を持っています。「夏も近づく八十八夜・・・」と歌われているように、春分の日から88日目を迎える5月の頃から、新茶の摘み取りに精を出します。この時期は天候も安定していて、太陽の光や初夏の風が茶の葉をいっそう引き立て、美味しいお茶をいただけるという知恵なのでしょう。

米づくり(普通稲作)では、この「八十八夜」の頃から種粃(たねもみ)まきが始まり、半夏生(はんげしょう)までに田植えを終わらせないといけないと言われています。「半夏生」とは、夏至から11日目のことで、今年は7月1日になります。この時期に体をしっかり休ませ、梅雨明けの農作物がよく育つ時期に向けて準備をする大切な節目になります。

自然を相手に働く皆さんにとっては、一年間の気候の移り変わりに応じて24の節目を暦に位置づけ、農作業や祭りでの祝い事を行ってきました。それぞれの地域に、昔から息づく知恵や文化が伝えられています。

宿利原小学校では、臨時休業前の4月17日に田植えが終わりました。早期栽培と言います。上に書いた普通作の時期よりも2ヶ月ほど早く作業が進みます。暖かい地域で霜の恐れがないことや水田に必要な水の確保ができていることが早期米作りの条件となります。台風の被害に遭いにくい良さや、夏以降に準備を始める大根作りや高菜作りの作業と重なりが少ないことなど、早期栽培は農家の方々の知恵から生まれたものです。

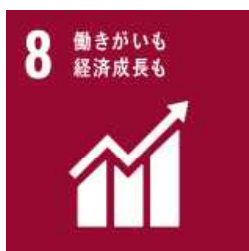


【宿っこ田んぼ】

今年も、宿利原小学校では、保護者や地域の皆様の協力をいただきながら食農に関する様々な体験活動を進めていきます。

子ども達には活動を通して、たくさん汗と感動と、先人の知恵に出逢ってほしいと思います。小学校生活で繰り返し行う地域体験活動を通して「働くことの素晴らしさ」「地域の産業と文化」「自然の恵み」について、一人一人が学び取れるようにしていきます。

作物が生長し、花を咲かせ、実を結ぶように、子ども達も大きく成長していきます。ぐんぐん育て、宿っこ達！！



2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」(SDGs)17の目標から※SDGsの目標を意識して学校教育活動を進めることで、今の子ども達が社会を支える2030年のよりよい環境作り、社会を生き抜く子どもの成長をめざしています。

